

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900047
法人名	社会福祉法人鷹羽会
事業所名	グループホームひまわり苑
所在地	福岡県田川郡大任町大字大行事519-1
自己評価作成日	平成26年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年8月22日	評価結果確定日	平成27年1月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには田畑が広がり、遠くに見える山並みとマッチした田園風景にはとても癒されます。敷地、建物ともゆったりと取られ、大きな窓と吹き抜けの天井から光が十分入り、明るく開放感があります。床材は転倒してもケガがないようクッション素材を使用して安全にも配慮しています。隣近所の方々との交流もあり、畑で採れた野菜をいただいたり、敷地の草刈りに民生委員さんが来てくださったりと、苑のことをいつも気にかけていただいています。近くにはたくさんの人が訪れる道の駅があり、四季の花々を見にでかけたり、食事に出かけたりと活用しています。外出の機会を多く作り、四季の自然に触れながらじみの地域でその人らしい生活を送れるよう支援していきます。

今年度より、日常の中で職員より自然に発せられた「思いやり」と「チェンジ」を理念に加え、毎朝入居者の方々とともに唱和している。また、地域の後藤寺商店街での買い物ツアーを企画したり、出汁からこだわる食事作り、室内の装飾や日常的な散歩等、職員の豊かな発想や思いが活かされている。管理者は、職員の主体的な意識の成長を促し、形だけにとらわれることなく、個性の発揮や本質的な関わりの場面を大切にしている。また、法人内の連携を活かした専門職としての育成はもとより、暮らしの場所として「普通感覚」を保ち、居心地良く個別の生活が継続できるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という鷹羽会の理念を毎朝入居者さんと一緒に唱和している。今年度より日頃の生活の中から出た「思いやり」と「チェンジ」も追加し、朝の始まりにしている。	玄関には、職員の個人目標が掲示されており、その中には理念の実践を掲げる目標も確認できる。また、職員間で自然に生まれた「思いやり」と「チェンジ」も理念に加えられ、毎朝の申し送りの際に、入居者の方々とともに唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方へのあいさつを心がけ、地域の行事にも参加するよう努めている。	町内会に加入し、地域行事や活動に参加している。数百名の参加を得て盛況に開催される母体法人でのバーベキュー大会参加時には、入居者とともにダンスを披露し、地域の後藤寺商店街で買い物ツアーを組んだり、事業所の草刈りを手伝ってもらったりと、双方向で交流を重ねている。地域より設備面での意見や要望があり、法人として、事業所として、即時に対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの見学、説明の要望があれば快く応じ丁寧に対応を心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月間の苑の状況を報告し、委員さんの意見や質問に答え、今後のサービスの向上に反映している。26年度より大任町包括支援センターからも参加していただいている。	通信の行事予定として運営推進会議を広く案内し、複数の家族、2地区の民生委員、町役場担当者、地域包括支援センター職員の出席を得ている。運営や活動の状況について報告し、意見交換や情報共有を図りながら、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大任町役場の担当者にも運営推進会議に参加していただき、施設の現状を報告、情報提供やアドバイスをいただいている。	運営推進会議には、町役場担当者の出席を得るとともに、今年度より、地域包括支援センター職員の参加も始まっている。日頃から、顔の見える関係性の中で連携を図り、アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室には鍵がなく、日中は施錠することはない。玄関にはセンサーがあり、音がなった時はすぐ対応できるようにしている。	前年度は、言葉による抑制や暴力について法人全体研修の中で重点的に取り上げ、今年度は、個別の事例について検討を行い、身体拘束をしないケアの実践に向けて、意識や理解を深めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や申し送りの時間に職員間で話し合い、どんなことが虐待になるのか、職員の意識付けをしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度については難しく、なかなか職員間でも理解しにくい、資料やパンフレットは手軽に見れるようにしている。	権利擁護に関する制度については、情報提供が行なえるよう資料を整備している。また、運営推進会議の中で議題としても取り上げ、情報発信が行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において契約書、重要事項について説明し、確認と同意をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は日々の生活の中で管理者や職員が聴いたり、くみ取ったりしている。家族からの意見、要望は面会時や運営推進会議の時に出示いただき検討している。	「ひまわり苑」通信の行事予定として、運営推進会議を全家族へ案内しており、複数の家族の出席を得ている。また、玄関ホールには、入居者の方々の家族への想いが掲示されている。盛況に開催される法人行事には家族の参加も多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りの時間などに職員の意見や提案を聴き、全員で検討し反映できるよう努めている。	今年度より、業務分担を明確にしたことで、責任感や主体性が更に発揮されるようになったと管理者は感じている。室内の飾り付けや行事等、アイデア豊かな企画も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得など職員の質の向上を促し、職員の努力や実績を認めている。定期的に食事会などを設け、ストレスの多い職種に理解を示し、発散の機会を提供してくれる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用に当たっては年齢や性別に関係なく本人の意欲を重視している。採用の際は代表とリーダー職員が検討し決定している。外部研修を促し、学びたい意欲のある者をを応援し、援助している。	職員の採用にあたり、年齢や性別等を理由に採用対象から排除することはない。希望や経験に応じて、持ち回りで外部研修に参加する機会があり、法人全体研修の実施等、スキルアップの機会をサポートしている。法人代表も事業所を訪れ、職員とのコミュニケーションを深めながら、風通しの良い職場環境作りに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務の中や、月1回の職員会議時、職員間で意見を出し合い、気が付いたことを話し合っている。	理念の共有や浸透を図り、実践に結び付けていく取り組みや、研修参加を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や社会福祉協議会、保健福祉事務所などからの研修への参加、スキルアップのための研修、資格取得を応援し、受講を勧めている。研修日は就業扱いとしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大任町ケアマネージャー連絡会への参加や、同じ法人内の他施設の職員との勉強会を定期的に設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とくに要望はない、という方が多い中、日頃の会話から職員が気づいたことを話し合い、その方の好みや希望を探っている。何でも言えるなじみの関係を築くよう心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時、状況報告をし要望をたずねている。気軽に要望が言えるような関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族への状況報告を行いながら、今何が必要か家族と一緒に見極めたい。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員という立場を超えて家族のような気持ちで対応するよう心掛けているが、節度も大切であることを肝に銘じている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の第一の支援者は家族であるが、職員も気持ちは家族と同じであり、家族とともに支援していくという思いでいる。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医を継続し、安心感を持ってもらおう。また行きつけのお店で買い物したり、なじみの人との交流が継続できるよう支援している。	地域住民である職員も多く、地域性を共有することができる。馴染みのかかりつけ医への受診や喫茶店の利用、地域の商店街での買い物ツアーを企画した際には、思いがけずお孫さんと会う等、つながりを大切にしたい支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方が日中居室にこもることなくリビングで過ごされている。言葉のトラブルが起こることがあるが、職員が仲介して治まる程度である。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連施設に転居された方がおられるが、職員も新しい施設を訪問しそちらの職員に情報提供したり、話し相手になっている。退去後も家族の方が寄られることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの商店街へ行ったり、週刊誌を買って読んだり、行きつけの店で洋服やお菓子を买买りして家で生活を継続でき、今したいことが何か希望を聞いている。	普段の会話の中で、これまでの暮らしを話題としてさりげなく問いかけたり、家族からの情報も得ながら、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。個人記録には、日々の暮らしのエピソードが残され、気づきの豊かさが伝わってくる。また、経過記録には、得意なことが発揮された場面や配偶者との馴れ初め、趣味活動等に関する記載等が残されており、職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者毎に担当職員を決め、何気ない生活の中のとりのめのない会話の中からその方のこれまでの生活を聞き取り、生活歴としてまとめている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居して1年以上が過ぎそれぞれの生活パターンがつかめてきたので、その方の体調や心の状態に適した対応がわかってきたようだ。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時一人一人の様子を報告しあい、面会時に家族から聞いた情報や要望を全体で検討しあっている。	本人、家族の意向を踏まえ、職員の意見やアイデアを取り入れながら、日常の中での役割や楽しみごと、趣味活動、機能維持に向けた働きかけ等を介護計画の中に位置付けている。日々の実践状況の確認や毎月のモニタリングを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。今後は、情報の集約やモニタリングの充実が期待されます。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録紙は簡潔化したが、気が付いたことは記録し、職員会議で反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望を聴けるよう、日々の生活の中でアンテナを張っている。また、家族の面会時には状況報告とともにご要望がないか声かけしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大任町やその周辺にある施設や自然を活用し自宅にいる感覚をj持っていたきながら、自宅ではできない体験もさせてあげたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医を受診できるよう支援している。また、それ以外に今必要な科への受診にも家族の協力を得ながら受け入れている。	以前から馴染みの関係であるかかりつけ医への受診を支援している。また、複数の協力医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。個別のバイタルシートには、訪問看護師による観察や処置内容等が記載されており、健康管理や早期対応につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医からの指示を週1回の訪問看護に伝え、アドバイスを得ている。またそれを次の受診時に生かしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族以外にもできるだけ職員が様子を見に行き、病院関係者から話を聴いたりアドバイスを受けている。退院指導は医療や食事面の説明を受け今後の苑での生活に生かしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、理解を得ている。	入居契約時に、わかりやすく丁寧に作成された対応指針を用い、事業所としての方針を説明している。法人内の事例の共有や研修が実施されており、意識や理解を深めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が実施する救命救急講習には職員が順番に参加し、技術を習得している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、通報、誘導、消火の訓練を受けている。また、近隣の方の協力を得られるよう緊急の連絡先を聞いている。	年2回の訓練時には、消防署より消防車や救急車、近隣に住む職員が駆け付ける等の取り組みがある。運営推進会議の議題としても取り上げ、地域消防団への声かけも行われている。飲料水や非常食、カセットコンロが備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人一人を尊重しプライバシーを損ねないような接し方に努めているが、日頃から職員同士でも言葉遣いを考えて対応している。	地域性を共有できる距離感の近い関係性の中で、馴れ合いとならないよう振り返る機会を持っている。排泄ケアや入浴時の対応、入室時の声かけ等に留意している。「普通感覚」も大切にしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる支援を行ったり、本人の希望を表現できる環境にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操などは日課として全員でできるように声かけしているが、午後からはご本人の気持ちを優先し、その方に合った過ごし方をしてもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や病院受診時には職員と一緒にその日のお天気や気分に合わせて洋服を選んでもらっている。ご家族にも声かけし、季節に合った洋服や下着を持ってきていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節に合った献立を取り入れ、皆さんが食欲がわくような献立を考えている。準備や後片付けもできる範囲で職員と一緒にやっている。気軽に外食も取り入れている。	栄養や調理について、法人内研修で発表を行っている。塩分や出汁のとり方について発表し、事業所では化学調味料を極力使用しないという職員のこだわりがある。小鉢を用い品数も多く、視覚からも食事を楽しむことが出来る。地域の店を利用し、肉や野菜、乾物等の買出しに出かけている。鍋料理や寿司、焼肉等の外食に出掛ける機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養不足にならないよう、一人一人に合わせた大きさに切って食べやすくし、少しでも多く摂取していただけるよう努力している。また、記録を通じて1日の水分摂取量を確認し、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人に口腔ケアを行っていただくが、最後は必ず職員が口腔内のチェックを行い仕上げをしている。また、週1回の訪問歯科より職員も適切な指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排泄の記録を行っているが、状況に応じて声かけ、誘導、見守り、介助を行っている。	個別の排泄状況を把握し、介護計画の中にも位置付けながら支援を行っている。布パンツへの移行について成功事例もあり、職員が方向性を共有しながら個別の支援を行っている。入浴時の腹部マッサージや日々の運動、家族との連携による乳製品の摂取により、便秘予防に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心がけ、食物繊維を多く含む食品が取れるよう食事作りを工夫している。また、腹部マッサージや運動の支援をし、服薬なども個人に合わせた薬や日数、量をその都度対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとりひとりに会った湯温や体調に合わせた入浴の仕方、順番にしている。偏った入浴順番ではなく希望に沿った配慮を心がけている。	隔日の基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や体調等に応じて、シャワー浴も含め、柔軟な対応に努めている。湯加減や入浴剤の使用等、個別の希望に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングのソファで横になったりテレビを観ていただいている。体調が悪いときは居室のベッドで休んでいただき、ご本人に合わせて頭や足をギャッジアップしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などがあれば職員内で確認を行い、間違えのないように気をつけている。ご自分で服薬できる方は職員と一緒に確認を行っている。薬の説明書は一人一人のファイルにとじいつでも見られるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理にではなく一人一人の力に合わせた役割をしていただいている。日々楽しく過ごしていただけるようそれぞれの昔話をきいたり気分転換のため外への散歩や買い物なども取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に合わせて花を見に行ったり、近くの道の駅などへ行き外食したり買い物をして外出の機会を多く設けている。日頃天気の良い日には近くを散歩したり花を摘みに行ったりして気分転換を図っている。	暑さ寒さや季節の変化を五感で感じながら、日常的に散歩に出かけている。地域の後藤寺商店街での買い物ツアーを企画したり、道の駅への外出、また外食の機会も多く、積極的に外出支援を行っている。今後は、個別性や目的を意識した外出支援についても、職員の豊かなアイデアが活かされることが期待されます。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より少額を渡していただき、買い物時は自分で支払っていただく。管理は自分でしてくださいとお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は取り次いで直接話してもらっている。携帯電話を持っておられる方もいる。手紙を書いたので出してほしいと要望があればポストに投函している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りを取り入れて、家にいるような感覚で居心地良く生活できるよう工夫している。温度や湿度に気を配り快適な環境を保つよう気を配っている。	玄関ホールには、入居者により活かされた季節の花や、家族による折り紙作品等が飾られている。また、浴室や左右からアプローチが可能なトイレも含め、天井の高いリビングにはゆとりある大きさの食卓やリクライニングチェアが用意され、共用空間は開放的である。各所の掲示物や廊下の歩行訓練の標しから、職員の豊かな発想や日々の取り組みが伝わってくる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓の他、テレビを観る一人掛けのソファもあり、一人になりたければ居室に入ってくつろぐことも制限はない。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の持ち物は家族とご本人の好みに任せている。思い思いにソファや仏壇など持ち込まれる方もある。	ソファが持ち込まれていたり、家族の写真が飾られたりと、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は一人一人が見渡せるオープンな構造で、どこに何があるか一目でわかりやすくなっている。安全で快適な空間になっている。		